

2002年度「家族の会」事業実施報告

社団法人 呆け老人をかかえる家族の会

【家族の会のテーマ】
すべてのぼけの人と家族を支え、ケアの質の向上を求める

事業名	計 画	実 施 状 況	備 考
啓発・研修	<p>(1) 世界アルツハイマーデー 全国一斉街頭活動 本部・支部記念講演会 「国際アルツハイマー 病協会第20回国際会 議・京都・2004」アピー ル</p> <p>(2) 講師の派遣</p> <p>(3) ブロック会議</p>	<p>(1) 世界アルツハイマーデー ポスター、リーフレットの作成 全国一斉街頭活動 実施個所 86 参加者 1005名 本部・支部記念講演会 本部(京都・東京)参加者 660名 支部 実施支部23支部 2004 国際会議アピール 講演会でファーストアナウンスメント配布 世界アルツハイマーデーフォーラム 協力 (東京、名古屋、大阪、福岡)</p> <p>(2) 講師派遣 支部主催世界アルツハイマーデー記念 講演会の講師として、その他団体主催 講演会の依頼を受け、理事・支部世話人が積極的に対応 した</p> <p>(3) ブロック会議 九州(7/13.14)近畿(7/27.28)北海道・東北(10/19.20) 中部(11/9.10)</p>	

		<p>中国・四国（11/16.17）関東（11/17）</p> <p>共通テーマ 各支部提案テーマの協議 電話相談研修会</p>	
<p>介護保険・人権擁護・成年後見制度についての取り組み</p>	<p>(1) 介護保険見直しへの要望書の提出 (2) 成年後見制度・人権擁護への取り組み (3) 会報「ぽ～れぽ～れ」を通じての情報提供</p>	<p>(1) 介護保険見直しへの要望書の提出 要望書提出に先立ち、総会で会員から意見を求めた（分科会） 6/26 日厚生労働省へ要望書提出 11/6 日厚生労働省恒川審議官、館石課長補佐が、「痴呆性高齢者の支援対策」について「家族の会」に意見を求めた。 高見代表、三宅副代表、勝田理事（介護保険専門委員長）対応</p> <p>(2) 成年後見制度・人権擁護に関する取組 昨年度実施のアンケート結果をまとめて報告書を作成（4月）</p> <p>(3) 会報「ぽ～れぽ～れ」を通じての情報提供 介護保険情報提供 261号、262号、263号、264号 265号、270号 成年後見制度、権利擁護の情報提供 261号、265号</p>	

<p>若年期痴呆への 取組み</p>	<p>(1) アンケート実態調査報告書の発行 (2) 支部つどい、電話相談での対応を強化する。 (3) 会報「ぼ～れば～れ」からの情報提供 (4) 「若年期痴呆相談マニュアル」の作成</p>	<p>(1) アンケート実態調査の報告書の作成 2001 年度実施の若年期痴呆実態調査の結果をまとめ報告書を作成、発行した。(4月) (2) 支部つどい、電話相談での対応強化 支部で若年期痴呆のつどいを開催する支部が増えてきた。 若年期痴呆の電話相談は増加している。研修会などで問題提起の上、対応を助言した。 ブロック会議においても若年期痴呆の支部つどいのもち方、電話相談の対応について協議した。 総会分科会で「若年期痴呆の取り組み」を検討した。 (3) 会報「ぼ～れば～れ」での情報提供 262号、263号、265号、266号</p>	
<p>国際会議「国際アルツハイマー病協会第20回国際会議・京都2004」への取組み</p>	<p>(1) 事務局体制の強化 (2) 組織委員会、プログラム部会、総務部会、財務部会の開催 (3) ファーストアナウンスメントの作成 (4) 国際会議専用ロゴマークの作成 (5) A D I 国際会議日本開催</p>	<p>(1) 事務局の体制強化 専用の事務室を設置した。 日常業務に必要な備品を揃えた。 (2) 組織委員会、プログラム部会、総務部会、財務部会の開催 2004年の開催に向け、委員会、各部会を次のとおり開催した。 組織委員会(8/4 京都)総務部会(7/7 川崎、8/11 川崎) プログラム部会(12/21 東京)財務部会打合せ</p>	

	<p>の募金開始</p> <p>(6) 国際会議委託会社として (株)ジェイコムと業務契約を締結。</p> <p>(7) ADI 国際会議 (スペイン・10月)へ代表団派遣</p>	<p>(4/12 本部事務局)</p> <p>(3) ファーストアナウンスメントの作成 国際会議専用の封筒、便箋を印刷 ファーストアナウンスメント印刷 各国アルツハイマー病協会に配布 「家族の会」支部に配布 各種学会、関連団体に配布 講演会、シンポジウムに配布 国際会議 (バルセロナ、香港)で配布</p> <p>(4) 国際会議専用のロゴマークを作成 各種印刷物、案内文書に積極的に活用</p> <p>(5) ADI 国際会議の募金開始 募金趣意書、一般向けパンフレット、チラシの作成 各種団体、関連先に配布</p> <p>(6) 国際会議委託会社として、(株)ジェイコムとの業務契約を締結した。</p> <p>(7) 国際会議に代表団を派遣 9/5～9/8 ADI アジア環太平洋会議に梅本氏、宮部本部事務局長を派遣 (開催地 香港) 10/23～10/26 第18回ADI国際会議に三宅副代表 (国際会議事務局長)ほか4名の代表団、「家族の会」関係者を含め日本から30名が参加した。 ADI事務局のリマー事務局長と「家族の会」代表団が2004年日本開催についての打ち合わせを行った</p>	
相談支援事業	(1) 支部活動の支援	(1) 支部活動支援	

	<p>つどい、電話相談、ぼけ相談等を支援</p> <p>(2) フリーダイヤル電話相談</p> <p>(3) ブロック会議の開催</p>	<p>支部主催の「つどい」、電話相談、ぼけ相談等の活動を支援するため、1支部 30,000 円を助成した。</p> <p>(2) 本部電話相談事業（ぼけの電話相談 110 番）</p> <p>フリーダイヤル（全国エリア）を継続して実施した。</p> <p>3 年間の集大成としての「電話相談事業報告書」を作成した。</p> <p>そのための報告書作成編集会議を 3 回開催した。</p> <p>「ぼけの電話相談」担当者の研修会を年間 2 回開催した。</p> <p>(3) ブロック会議の開催</p> <p>全国の支部を 6 ブロックに分けて実施。（啓発・研修参照）</p> <p>支部が日常抱える問題と全国共通テーマを設け協議・意見交換した。</p> <p>電話相談研修会を開催した。（本部電話相談事業に連動し、相談員のレベルアップを図る）</p>	
<p>「家族の会」ホームページの充実</p>	<p>(1) 「家族の会」ホームページ</p> <p>痴呆に関する情報提供</p> <p>海外情報の提供</p> <p>「痴呆ケア・ポータルサイト」との連携</p> <p>(2) 子供向けホームページ</p> <p>教材としての内容充実</p> <p>PR</p> <p>子供・教育者の感想・意</p>	<p>(1) 「家族の会」ホームページ</p> <p>「家族の会」のホームページへのアクセスは、1 日平均 200 件を超え、痴呆専門のホームページとして、高い評価を受けている。ホームページを見てのメール相談が増えている。</p> <p>会報「ぼ～れば～れ」と連動させ、痴呆に関する医療・福祉・介護・人権などの情報を提供している。</p> <p>海外情報も積極的に提供した。</p> <p>海外向け英語版の提供</p> <p>ホームページよりのマスコミ取材が多くなっている。</p>	

	<p>見を求める。</p>	<p>住友生命ホームページ「痴呆ケア・ポータルサイト」にリンクし「家族の会」へのメール相談を受け付ける。メール相談の増加に伴い、電話相談担当者の中から、メール相談担当メンバーを設置した。</p> <p>(4) こども向けホームページ こども向けホームページも 1 日平均 200 件のアクセスを記録している。 教材としての内容を充実するよう企画していたが、本年度はホームページの反響を見るにとどめる。 作成して初年度であるため、マスコミを通じて取材を受け、積極的にPRした。 主な掲載紙 朝日、日経、読売、神戸、共同通信、京都、やさしい手（婦人生活社） コミュニティケア（日本看護協会出版会）等 ホームページを見ての感想メールも多く寄せられた。 子供ばかりでなく大人の関心も高かった。 ADI のアジア環太平洋会議（香港）において、こども向けホームページ の報告をしたところ各国の関心が高く、各国から英語版の要請が強かった。</p>	
<p>機関誌の発行</p>	<p>(1) 会報「ぼ～れば～れ」の毎月発行 名称「老人をかかえて」から「ぼ～れば～れ」へ 表紙の体裁、記事内容の工夫と読みやす</p>	<p>(1) 会報「ぼ～れば～れ」の毎月発行 会報の編集にあたっては、介護家族の精神的な支えとなる。ぼけに関する幅広い情報、ぼけについての正しい啓蒙、「家族の会」を広く知ってもらうことを中心に編集にあたった。 4月から「ぼ～れば～れ」に名称変更を行った。 表紙、記事の内容を読者に読みやすくリニューアル</p>	

	い紙面に 家族の声の反映（読 者はがき）	した。 「読者はがき」は実施できなかったが、「会員さん からののお便り」欄 に、会員からののお便り積極的に掲載、会員からの声 が多く寄せられた。	
調査・研究	2002 年度の調査・研究テーマ は「ぼけの人の思いを知る」 とした。	2002 年度調査・研究テーマ 「ぼけの人の思いを知る」 調査対象 （社）「家族の会」会員 調査時期 10 月 結果の報告 会報「ぼ～れば～れ」での 報告と調査結果報告書 委員会の設置 三宅副代表（責任者）大橋理事、中島理事、杉山理事 で構成する。 委員会を 2 回開催した。 会報「ぼ～れば～れ」10 月号にアンケート用紙を挿入。 回答は返信封筒で 11 月末までに事務局に送られてく る。 11 月末日 回答数 571 通	
全国研究集会	第 18 回全国研究集会 テーマ 「痴呆介護のバリアを どのように取り除けばよい か？」 担当支部 岡山県支部 会場 岡山コンベンショ ンセンター	ぼけの人と家族への援助をすすめる 第 18 回全国研究集会 テーマ 痴呆介護のバリアをどのように取 り除けばよいか？ 誰もがいきいきと暮らすための新 展開を探る 日時 2002 年 10 月 13 日（日）9：30～16：00	

	<p>日時 2002年10月13日</p>	<p>場所 岡山コンベンションセンター 基調講演 朝田隆氏（筑波大学教授） 厚生労働省特別発表・事例発表 全体討論</p> <p>（評価）会場は、参加者で埋め尽くされ、熱気あふれる全国研究集会が実施できた。 （参加者 約800名）事例発表は、どれもすばらしく、在宅介護、施設介護について参加者の感銘を呼び、評価は非常に高かった。全国研究集会は年々盛会となり、「家族の会」の特徴を生かした研究集会としての発展を見せている。 また、同時に開催された岡山県支部主催の「痴呆を理解し介護を高める啓発パネル展」も好評であった。</p>	
<p>組織・財政</p>	<p>（1）会員拡大と支部組織の強化 未組織県への対応 100名未満支部への指導強化 支部組織の強化と世話人の育成 （2）財政面の安定を図る。</p>	<p>（1）会員拡大と支部組織の強化 組織・財政専門委員会において支部組織の拡大と強化を協議し、全支部を対象にアンケート調査を実施した。 未組織県への対応 三重県支部が承認された。 茨城、沖縄県で2003年度支部結成に向けて、それぞれ準備会が結成された。 福井県で高見代表、勝田理事、笹森理事が講演し、全国組織のアピールを行った。 支部組織の強化については、各ブロック会議の主要議題として協議した。</p>	

		<p>(2) 財政の安定化 2002年度は、厳しい経済情勢の中、社会福祉・医療事業団、住友生命(相) イーザイ(株)(財)日本興亜福祉財団、(財)みずほ教育福祉財団、(財)三井住友海上福祉財団、(財)ぼけ予防協会、京都生命保険協会等の 協力によって無事に各事業の推進を図ることができた。</p>	
財団法人日本興亜福祉財団助成交流・研修事業	(財)日本興亜福祉財団の助成を受け、支部主催によるリフレッシュ旅行(交流・研修)を実施する。	財団法人日本興亜福祉財団の助成を受けて下記の支部がリフレッシュ旅行を開催した。 開催支部と参加者 山梨県支部(6/8)40名、広島県支部(7/1~2)31名、京都府支部(7/6~7)40名、岡山県支部(7/13)23名、愛知県支部(8/31~9/1)45名、山形県支部(9/7)21名、秋田県支部(9/7~8)22名、福島県支部(9/7~8)47名、大阪府支部(9/18~19)23名、奈良県支部(9/25~26)27名、佐賀県支部(9/28~29)26名、新潟県支部(10/5~6)44名、兵庫県支部(10/19~20)21名、岐阜県支部(10/21~22)20名、埼玉県支部(10/27~28)41名、鳥取県支部(11/9~10)40名、長崎県支部(11/21~22)32名、宮崎県支部(11/23~24)41名、千葉県支部(1/25~26)46名 開催支部数 19支部 参加者 646名	